

9月1日は「防災の日」

地域で高める防災意識

災害に対する認識を深めようと、

大正12年の関東大震災にちなみ毎年9月1日を「防災の日」、

8月30日から9月5日までを「防災週間」としています。

平成23年の東日本大震災や、今年西日本を中心に発生した平成30年7月豪雨など、

さまざまな自然災害が発生し、全国各地で大きな被害をもたらしています。

防災の日を機会に、災害について一度見つめ直しましょう。



防災意識を高めよう

災害はいつでもどこで起こるか分かりません。日ごろから一人一人が災害について考え、防災意識を高めていくことが大切です。

自らが行動「自助」の意識

自分の生命は自分が守るという意識を持ち、備えることを「自助」といいます。災害が発生したときの確な行動が取れるよう、地域や職場などの防災訓練に積極的に参加し、防災行動力を高めましょう。

普段から飲料水や保存のきく食糧などを、3日分を目安に備蓄しましょう。

みんなで協力「共助」の意識

自分たちのまちは自分たちで

守るという意識を共有し、備えることを「共助」といいます。

災害発生時には、地域の人々が互いに協力して助け合い、被害を最小限にとどめることが大切です。障害がある人や要介護の認定を受けた人、高齢者などの要配慮者を、地域や事業所が協力し気遣うなど、普段からコミュニケーションを図り、いざというときには、協力し合いながら支援しましょう。

むやみに移動を開始せず、落ち着いたら行動を

立ち着いた行動を

大規模な災害が発生すると、公共交通機関が停止し、帰宅が困難になることが予想されます。多くの人が一斉に帰宅を始める

と、火災や落下物などで負傷する恐れが高まるほか、救助・救急活動の妨げになります。

むやみに移動しない

身の安全を確保し、職場や集客施設などの安全な場所にとどまろう。

災害用伝言サービスで、家族の安否を確かめよう。

交通情報や被害情報などを入力しよう。

日ごろから準備を

携帯ラジオや地図を持ち歩こう。

スニーカーや懐中電灯、手袋、飲料水、食料などを用意しよう。

家族などと安否確認の方法、

集合場所、帰宅経路の状況を確認しておこう。

防災行政無線の戸別受信機

戸別受信機は、停電対応用としてアルカリの単1電池を2本使用します。戸別受信機から電池の容量が無くなったことの合図があつたら、電池を交換し、右側面にある電源スイッチ(黒色で上下に可動)を一旦切つてから、再度スイッチを入れ直してください。

受信状況が悪く聞こえにくい場合には、アンテナを最大に伸ばし、設置場所を変更して再度電源を入れ直します。それでも聞こえない場合は総務課に連絡してください。

自主防災組織に補助金を交付

区や自治会などの日常生活圏域を単位とした、自主的な防災活動を行う自主防災組織などに補助金を交付し、結成や活動を推進しています。

補助対象事業と補助額

【地域の自主的な防災訓練など】補助額／費用の3分の2に相当する額で、10万円を限度とする。

【防災用資機材などの購入】補助額／自主防災組織の設立時に購入する場合は、費用の全額で、20万円を限度とする。

申請方法

総務課にある申請書に、必要書類を添えて提出してください。

問い合わせ先

総務課地域安全班

☎ 62・5311

家族や近所そろって総合防災訓練に参加しよう

日時／9月2日(日) 午前8時30分～
訓練場所／いいおか潮騒ホテル北側グラウンド

対象地域／飯岡地域

※当日は海岸沿いの地区を対象にした、津波避難訓練も実施します。